

住民主体の事業とは ～SCと協議体の役割とは～



公益財団法人さわやか福祉財団
理事 鶴山芳子

なぜ、助け合いなのか

平成27年（2015年）度 第6期介護保険制度改正

「**要支援者の生活支援を市町村事業に
助け合いで支えよう**」

“**地域共生社会の実現を推進**”

「**これからの我がまちにおける
助け合い地域づくりを推進していこう**」

背景は少子高齢化人口減少に伴う、担い手の不足、財源の不足
高齢者福祉の部門だけの問題ではない。どの事業にも共通

少子高齢化
人口減少

従来の事業とは
どう違うのか・・・

○給付事業

基準を決めて公平平等に
分野ごとタテ割で



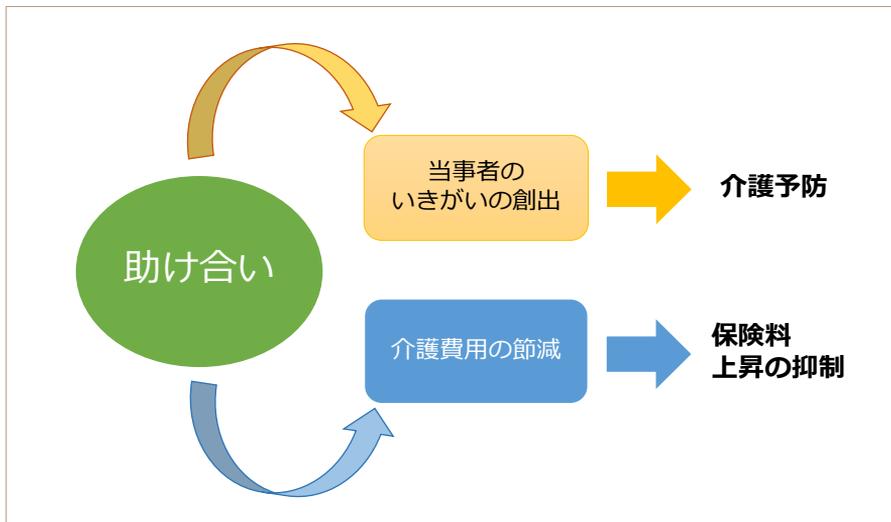
○生活支援体制整備事業、総合事業
「住民主体の事業」

「困っている人なら誰でも」
→タテ割りではできない

住民が自発的に動くのが住民主体
行政は後方支援に徹する

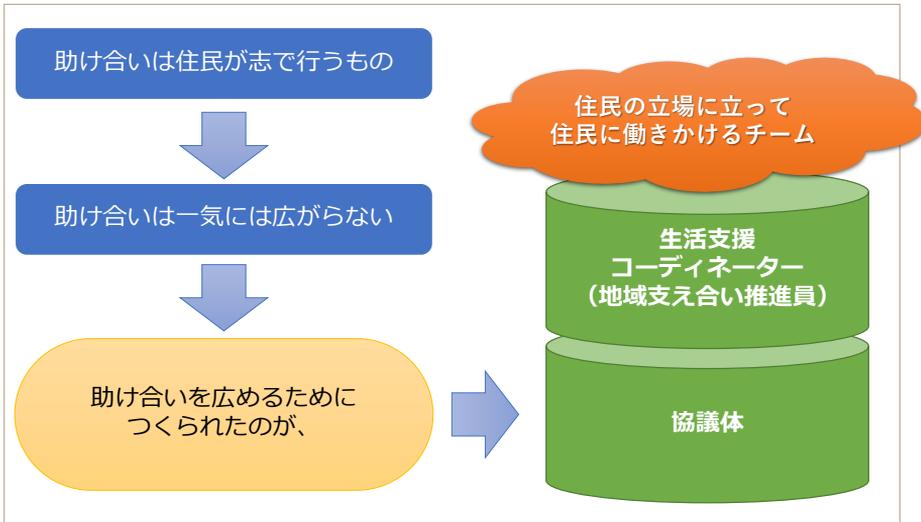
SC及び協議体の任務

1. 助け合いを広める効果



4

2. SC・協議体の任務は助け合いを広めること



5

SC・協議体 働きかけの3つのステップ

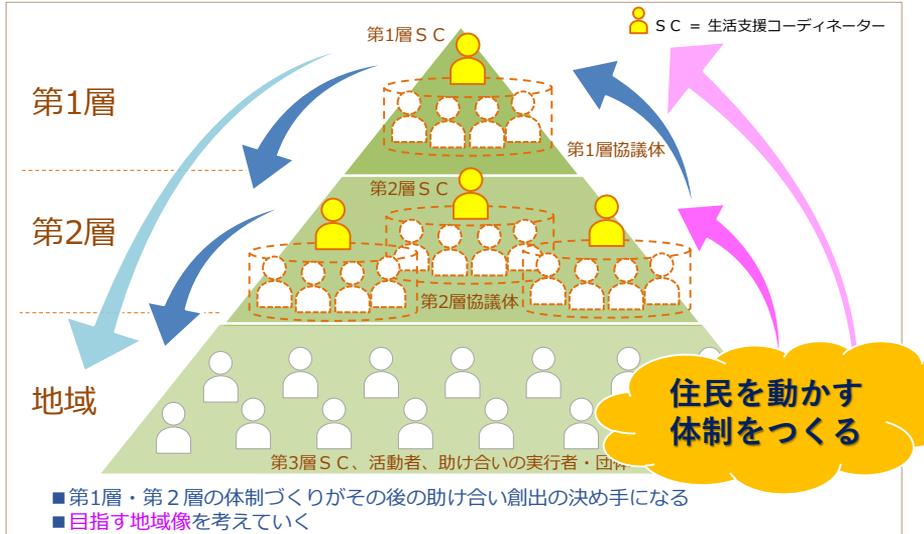
ステップ① 体制整備

ステップ② ニーズの把握と
担い手の掘り起こし

ステップ③ 助け合い活動の創出

生活支援コーディネーター及び協議体の役割

ステップ ①：第1・2層協議体の基盤づくり



1層の選定

大づかみ方式

行政・社協・包括等関係者による勉強会

1層協議体選定 ↔ 1層SC選定

2層の選定

①各2層圏域で大づかみ方式

2層圏域関係者及び1層SC等による全体勉強会

2層協議体選定 ↔ 2層SC選定

②市町村全体フォーラムから選定

1層SC (+ 協議体)主催の市町村域フォーラム

→ 2層協議体・担い手参加挙手者(プラス非参加の希望者・推薦者)による2層圏域ごとの勉強会
→ 2層協議体選定 ↔ 2層SC選定

③2層圏域フォーラムから選定

それぞれの2層実行委員会(1層SCまたは2層SC等がリードして2層協議体構成員候補者などで結成)が主催する2層圏域フォーラム

→ 2層協議体・担い手参加挙手者プラス希望者等による勉強会
→ 2層協議体選定 ↔ 2層SC選定

民意に沿って選出
やる気の人を選んで
いるか

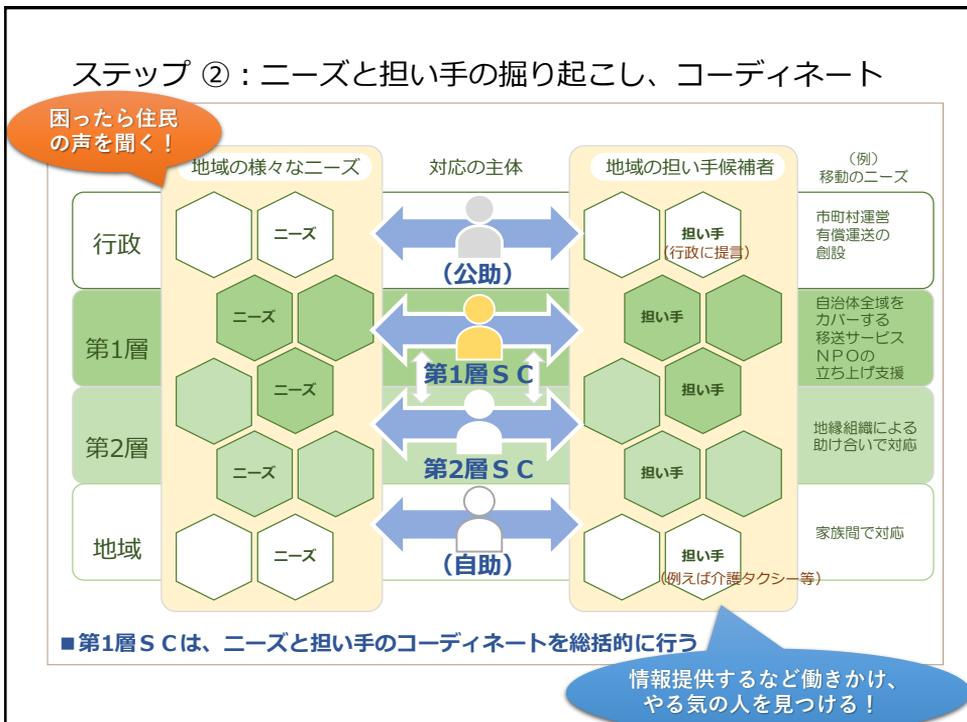
※SC=生活支援コーディネーター

「お願いします」
→気づいて、主体的な参加へ

想いのある人、得意分野を生かしてもらう人たちの
チームづくりを！

勉強会などで
共通認識をもち
* 手上げ方式
* みんなで意見
を出し合う

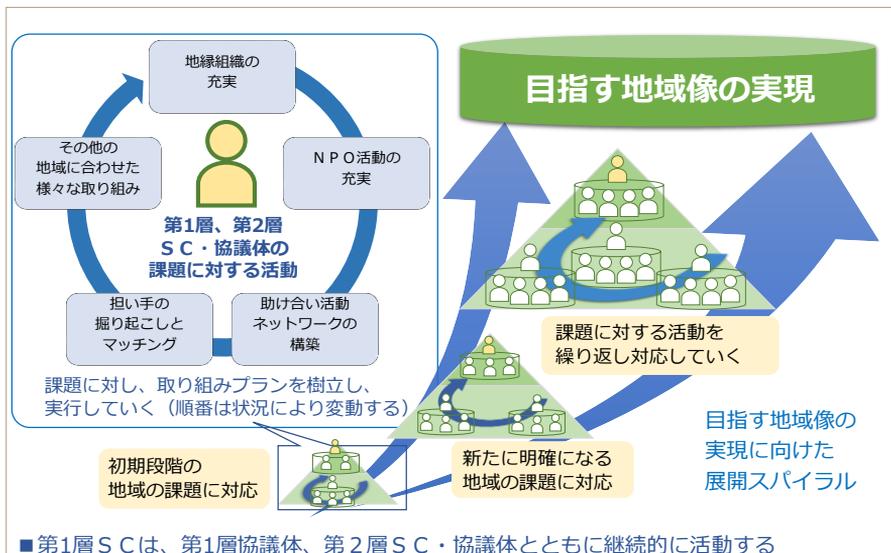
活動の中で、体制は柔軟に充実していく



助け合い活動に対するニーズの把握と、担い手の掘り起こしに関して住民に聞く方法

方 式	取り組みやすさ	ニーズのつかみやすさ	担い手の見つけやすさ
アンケート方式	◎	○	△
個別面談方式	△	◎	○
町内会レベルワークショップ方式 (住民懇談会)	△	◎	◎
担い手養成講座	○	—	△
関係機関等からの情報 (地域包括・地域ケア会議・ケアマネジャー・ 民生委員・地区社協・NPO・自治会・ 行政関係部署・各種相談機関その他)	○	◎	—
居場所からの情報	○	◎	◎

ステップ③：S C・協議体による地域の課題解決



多様な助け合い活動

生活などの支援	居場所
○有償ボランティア団体による支援	○基幹型（モデル居場所プラス情報拠点）
○無償ボランティア団体による支援	○交流型 { なりゆき型（常設が多い） 混合型
○特定生活不自由者別チームによる支援	○イベント型 { ものづくり型 体操型 趣味の行事型 学習会型
○町内会の助け合い { 見守り・子育て支援 用足し・話し相手	○食事会型・カフェ型・飲み会型
○ご近所の助け合い	○ご近所の寄り合い

コロナ禍で・・・

集まることもできない・・・
あの人気が気になる・・・
あの人にも気になる・・・



コロナ禍だからこそ、
もっと人とつながりたい
もっとおしゃべりがしたい！
人を元気にしたい！